

宮越浩一（編）

リハに役立つ 治療薬の知識とリスク管理

小 林 毅

（学校法人敬心学園大学開設準備室，作業療法士）



リハにかかわる作業療法士，理学療法士，言語聴覚士（以下，OT等）にとって，学生時代に「薬理学」等を学ぶ機会が少なく，臨床現場で四苦八苦しながら薬の効果や副作用（有害事象）を学ぶことが多い．特に，副作用（有害事象）については，「眠気」，「めまい」，「ふらつき」等のように直接的に作業療法等の実施を阻害する症状のほか，「不整脈」や「血圧の上昇（降下）」，「出血傾向」や「骨髄抑制」といった合併症の危険因子を十分に理解して作業療法等を実施する，いわゆるリスク管理を伴う重篤な問題もある．このようななかでOTは作業遂行のための心身の危険因子の理解だけではなく，治療による副作用（有害事象）を理解し，その危険を十分に注意・予見し，回避する義務を負っていることをあらためて認識する必要がある．

本書は，「リハに役立つ」と題しているように，「セラピストを主な対象とした薬剤の解説書」であ

り，従来の膨大な情報量の中から必要な情報を探し出す手間をできりがざり少なくして，作業療法等の実施に必要な治療薬の情報を容易に探し出せるように工夫されている．たとえば「第2章 各疾患の治療薬」では，各項目で「代表的な治療薬」として，比較的使用頻度が高い治療薬が表に挙げられている．また何より，危惧される課題を「リハビリテーションへの影響」として表にし，「合併症のリスク」，「リハの阻害因子」，「事故」のようにわかりやすく整理していることである．このうち，「リハの阻害因子」は，本書以外でこのような視点で整理している書籍は見当たらないのではないだろうか．この点で，本書はOT等にも手に入りやすいだけでなく，わかりやすく，臨床の現場ですぐに役に立つものであろう．

また，第3章の「Case Study」では，症例を提示した後に「Question」と「Answer」を示し，どのような視点で考えていくべきなの

か，初めて薬の副作用（有害事象）を考える学生や新人にもその過程がわかりやすい内容となっている．

強いて要望を述べさせていただければ，第2章の「リハビリテーションの影響」の「事故」の内容の多くが「転倒」となっているが，注意予見義務から考えれば，循環器系の虚血による意識障害や心不全等の結果としての転倒ではなく，「意識障害」，「心不全」自体を事故と考えて，早期発見，早期対応に努める必要があるのではないだろうか．この点を考えて，「第1章 リスク管理に活かすために」にある「③嚥下機能に影響を与える薬剤」や「④高齢者における薬剤」といった整理の視点が，より一層充実することを期待したい．

強いての期待はあるが，OT等が座右に置くべき1冊ではないだろうか．

A5判 256頁 3,600円＋税
羊土社 刊
☎ 03-5282-1211